

# WINDY



◆特集◆

## 男性も育児を楽しもう！～子育てって素晴らしい～



### 男女共同参画フォーラム

サトシンさんの「おてて絵本よみまショー&トークショー」を開催しました。

平成26年1月25日(土)にパルティセとで「瀬戸市男女共同参画フォーラム」を開催しました。

絵本作家のサトシンさんをお招きし、おてて絵本(※)ワークショップや、音楽にあわせ歌いながらの絵本の読み聞かせを行い、子どもから大人まで楽しめる講演会となりました。

3人のお子さんの父親(現在、上のお二人のお子さんは成人されています)であるサトシンさんは、第一子が誕生した際に、育児のために当時勤めていた広告制作プロダクションを退社し、「専業主夫」を経験されました。

講演会では、ご自身の経験から、子育ての面白さ、子どもの成長をつぶさに見ることができる素晴らしさ、男性も積極的に育児に関わることの大切さをお話いただきました。

また、「親子のふれあいをしっかり持ち子どもの自尊感情を養うことが、今後の人間関係を形成するうえでとても重要である」との言葉に、会場の皆さんは深く共感されていました。



サトシンさん



### 参加者の声

- ★「主夫」の経験から絵本に生活感とユーモアがあって楽しかった。
- ★ふれあいについてすごく熱く語ってくださって、とても考えさせられたし、楽しかった。
- ★子育てを楽しく面白くし、しかも真摯な話はよかった!!
- ★楽しいお話でした! こんな風に子どもに絵本を読んであげると、もっと絵本に興味を持ってくれるのだなあと感じました。

※おてて絵本とは・・・

両手を絵本に見立てて即興で物語を作り出す、親子のコミュニケーション遊びです。

## 男性育児休業取得者の声

平成24年度に育児休業を取得した瀬戸市役所の男性職員2名に、取得後のアンケートを実施しました。

### <アンケート項目>

- ① 育児休業を取得する前に一番大変だったことは、何ですか。
- ② 育児休業を取得する前後での職場の上司、同僚、後輩の反応を教えてください。
- ③ 育児休業を取得する前後での家族、親戚、友人の反応を教えてください。
- ④ 育児休業を取得して良かったことは何ですか。
- ⑤ 育児経験が仕事にプラスになっていることは何ですか。



- ① 上司・同僚に理解と協力してもらえなかった不安でした。伝えるタイミングの難しさと担当している事務作業をお願いするのが心苦しかったです。
- ② 上司・同僚とも理解していただけただけで、気持ちよく取得することができ、大変感謝しています。ただし、復帰したあとはお休みをもらった手前、与えられた仕事について意見せず頑張らなければという心構えでいました。
- ③ 妻、両親、友人など、男性が育児休業を取得するということが、感心され絶賛されました。
- ④ 何よりも育児の大変さを学ぶことができ、また子供の成長を間近で見ることができたのは良かったです。子どもは理不尽なので、我慢を学び、正直なところ、仕事をしている方が自分のペースで進められるので楽かもしれません。育児は、もう一回り自分を成長させてくれる機会であり、一生に何回も味わえるものではないので、貴重な経験でした。
- ⑤ なるべく定時に仕事を終わられるように、だらだら残業することがない効率的な行動を心がけています。  
子育て支援の部署について関心をもつ機会となり、異動希望先のひとつになりました。

### ママの感想

初めての育児で不安でしたが、夫婦で子育てができたのは大きな財産です。育休中は、親子で出かけたり、夫が子どもの世話をしている間に自分の時間を持つことができ、不安や負担が減りました。私の職場復帰から入園までの2週間、夫一人で育児を行ってくれました。仕事とは違う子育ての大変さを理解し、より積極的に子育てに関わってくれるようになりました。今では夫婦で楽しく育児をしています。



内藤寛之さん 30代  
(育休取得：H25年1月21日～3月31日)

① 仕事の面では、業務をスムーズに後任者に引き継げるように腐心したつもりでしたが、職場の上司、同僚、後輩の方が、大変な不安や苦勞を強いられたのではと、頭が下がる思いです。

私生活では、育休中のスケジュールなど妻からいろいろと指導を受けました。

金銭面では、総収入が減少する中で余裕がなくなるのも不安要素の一つでした。

子どもが妻に懐いていたのと、授乳の不安が付きまとい、母親の偉大さを痛感するとともに悔しくもありました。

② 正規職員が一人欠けるというのは大変な痛手だったと思いますが、職場の誰もから激励いただき、人間関係に恵まれ、心強く育児休暇を迎えられたことに非常に感謝しています。

取得直前には、やはり皆一様に「困ったなあ」という雰囲気になりましたが、育児休業が経過するに従い、携帯電話が鳴る回数も減少しました。育休期間満了時には「終わってみれば、早かった。」という感想も聞かれました。

③ 男性の育休取得について、女性（特に育休を経験している方）の方が好意的にとらえていただけている印象がある反面、男性（特に昔気質の亭主関白な方）からは、表面的には褒め称えられながらも、「理解に苦しむ」というような裏腹な気持ちが見え隠れしているようにも感じました。

また、民間企業では制度はあっても実際には行使できないこともあるようで、「信じられない」という友人もいました。

④ 二度とは帰ってこない子ども達との濃密な時間を過ごせたということにつきます。夕食を準備したり、洗濯や掃除を行なう父親像を子ども達に見せられたということは、教育上も有意義だったと思います。また、家庭生活における夫婦間の思考のギャップは、完全ではないにせよ少しは埋まったような気がします。

育児休業を取得することによって職場を離れ、自分を客観的に見つめ直すことができました。

⑤ いざ自分が子育てをする立場になると、子育て中の職員の方が定時に職場を去ることについて「そうせざるを得ないのだ」ということが漸く理解できました。これは、介護に置き換えても同様のことが言えると思います。

日本の子育て環境は、少子化や待機児童に代表されるように依然として様々な課題も抱えています。子育て環境の実態を目の当たりにし、公共の福祉を支える市の職員として、一個の人間として大切にすべきものは何かを問いただされたような気持ちです。



伊藤栄二さん 30代  
(第3子 育休取得：H24年10月1日～平成25年3月31日)

### ママの感想

自分の職場復帰がスムーズにいき、子どもの急な病気でも、夫が見てくれている安心感から仕事に集中できました。また、子どもがお父さんを大好きになって、卒乳が早くできました。家事も工夫し、おいしい離乳食や夕ご飯を用意してくれて、幸せを実感しました。子どもの成長を一緒に見られて、夫が子育ての大変な部分も頑張ってくれたので、子どものかわいさを満喫できました。

## イクメンプロジェクト

URL <http://www.ikumen-project.jp>

厚生労働省は、男性がもっと積極的に育児に関わることができる社会をめざし、家族、地域、企業の取り組みを応援する「イクメンプロジェクト」を推進。

ホームページから、育休取得体験談や各企業の取り組みなど、様々な情報を得られます。

## ★イクメンハンドブック★

## 「父親のワークライフバランス ～応援します！仕事と子育て両立パパ～」

妊娠・出産・子育て期において、父親が子育てに関わることの重要性や、具体的に父親が子育てにどう関わるか、職場や仕事との調整をどうするかヒントとしてご活用下さい。

「イクメンプロジェクト」ホームページよりダウンロードできます。

## 育児休業について

## ◆パパに認められた産後8週間以内の育児休業特例

育児休業は、同一の子に対して原則1回の取得ですが、男性は2回取得できる場合があります。

産後8週間以内の期間内にパパが育児休業を取得した場合には、特別な事情が無くても、再度育児休業を取得することができます。

## ◆パパ・ママ育休プラス

ママだけでなく、パパも育児休業を交代で取得する場合、休業取得期間が1歳2か月まで延びます。

※通常は1歳まで

## ◆パパ・ママ同時の育児休業取得

ママが専業主婦の場合や、育児休業中である場合も、パパが育児休業や育児のための短時間勤務制度を利用することができます。

